

<ニュースの内容>

- ・三方五湖自然再生協議会との意見交換会
- ・自然再生専門家会議・現地調査・意見交換会
- ・湖畔プラゴミ回収イベント
- ・自然再生全体構想まとまる
- ・3部会体制で事業スタート

※委員等は当時の役職名です。

三方五湖自然再生協議会との意見交換会

2019年1月28日午後：県庁

- ・知事・安全環境部長・自然環境課長・事務局
- ・青海忠久会長の進行で、三方五湖5名 北潟湖4名参加
- ・三方五湖自然再生協議会は、2011年全国で24番目に設立。
- ・北潟湖自然再生協議会は2018年全国で26番目に設立。
- ・三方：生業としての漁業は成り立たない。
- ・北潟：ながら漁業すら出来なくなった。
- ・汚濁水の調査など共通して出来ることをやって行く。
- ・淡水魚文化を次世代へ引き継ぐ流れにしていくには、成果を出して行く必要がある。
- ・今後も定期的に、情報交換や交流を深めていこう。

北潟湖自然再生協議会

3専門部会で事業を展開していきます。

- ①水と生きもの再生部会
- ②伝統文化と地域経済振興部会
- ③環境教育部会

★全体計画の概要版はHPで見ることが出来ます。

自然再生専門家会議（事務局：環境省、農林水産省、国土交通省） 現地調査・意見交換会 2019/2/1

専門家会議委員（五十音順）		専門家会議・関係行政機関	
今村 信大	公財：日本生態系協会 理事	江川 和孝	環境省 自然環境局
大河内 勇	一社：日本森林技術協会 理事	山本 康仁	環境省 自然環境局
志村 智子	公財：日本自然保護協会 部長	滝 勝也	農水省大臣官房政策課
守山 拓哉	宇都宮大学 農学部准教授	村山 広晃	国交省 総合政策局
鷺谷いづみ	中央大学 理工学部教授	河村 俊彦	環境省 中部地方事務所
和田 恵次	奈良女子大学 名誉教授		

北潟湖自然再生協議会：青海会長：組頭氏、佐賀氏、河田氏、辻下氏、松村氏の各委員
 福井県：佐々木自然環境課長、西垣主任
 あわら市：杉本市民生活部長、渡邊生活環境課長、北島課長補佐、笠原主事

[現地調査] 13:30 JR芦原温泉駅出発。移動バス内で、再生協議会の設立の経緯・趣旨やこれまでの取り組みについて、渡邊課長説明。



■あわら夢ぐるま公園展望台
 北潟湖の概況や特徴的な自然について説明：杉本市民生活部長・組頭副会長



■開田橋
 汐留水門としての機能や塩分濃度・漁業の現状について説明：辻下漁協組合長



■細呂木 後谷溜池
 周辺の溜池群は、希少なトンボ類が生息。外来種の駆除等説明：松村自保C所長



■赤尾湿地
 3haの湿地で希少な動植物が生息。湖に残された貴重な自然を説明：河田会長

自然再生専門家会議 意見交換会(2019/2/1) 要旨

大河内委員: ・小笠原では、外来種VS外来種になっている。
・エコツーリズムでは、自然と人との物語(ストーリー)を体験して貰う。
・ガイドは地元

守山委員:水田魚道はどうか?
答:小魚は遡上したが、30cm級の魚は遡上しなかった。
・幅広の魚道なら大丈夫と思う。

和田委員:底生生物の情報ないのか?
答:最近調査していない。湖の底にはヘドロが多い。
・水門を撤去して汽水湖に戻す気はないか?

今村委員:明治、昭和でなく、縄文まで遡るのなら、休耕田を元に戻す必要あり。国や県がどこまで戻すのか。
・自然を活用した観光を進めることが重要。世の中、環境についての意識が向上している。
・水生昆虫(トンボ)についての記載が少ない。環境の多様性を示すものなので大切。

志村委員:海岸が事業の区域に入っているのは良い。資金、知見、経験を活かして欲しい。

青海会長:水門を撤去すると、海水が流入し対策をしないと海水化してしまうと思う。それで良いと合意すれば良いが、その辺りがすごく悩ましい。現在、実験的に水門の管理方法を変えながら最善の状態を求めて試行している。

鷲谷委員長:日本では、水門の管理実験が出来る場所がないので画期的な事業になると思う。



自然再生協議会 2018年度 第2回 (要旨)

■2019年 2月 2日 9:30~11:30 於:北潟公民館

- ①北潟湖自然再生全体構想
 - ②北潟湖自然再生協議会の運営
 - ③その他 1:プラゴミ回収イベント 2:外来生物対策イベント
- 以上のことが協議され承認された。

■自然再生専門家会議の委員の講評

- 鷲谷委員長:**湖の恵みの再生、地域再生の可能性を感じた。走りながら考えるスタイルも必要。ここは持続可能な陸・海の豊さを守るモデルになっていく。観光客だけでなく環境客も増えると良いと感じた。事務局もしっかりしている。
- 今村委員:**今までのように、関心のある者だけが取り組むと失敗する。自然再生は、「街づくり」と同じだと考えている。行政に任せるだけでなく、地域のリーダーが出てきて地域が活動すると面白い。
- 大河内委員:**歴史のストーリーや文化を活かして、街づくりや文化・歴史の観点から自然再生に取り組んではどうか。

- 志村委員:**自然再生がゴールではなく、その先に子供達が湖で遊び、地域の元気な姿があるから活動していける。正解のない答えを一緒に考えていければ良いのではと感じた。
- 守山委員:**集落単位の小さい自然再生を行っているのは素晴らしい。10年先はなかなか見えないので、成功可能なちいさな目標を立てて取り組むと継続できる。
- 和田委員:**北潟湖の自然再生には、水質浄化が一番重要だと思っている。全体構想では、今までの対策や強化策について触れられていない。まずは、水をきれいにするのを第一に進めていけば良いと思う。



プラゴミ回収イベント開催 2019/3/9

■**講師:栗岡 理子氏**(環境カウンセラー・森林インストラクター)
相模原市で環境問題に取り組み研究されている。多様な視点でプラスチックに関する諸問題について講演された。

<要旨>

- ・処理にお金がかかる ・リサイクルしにくい ・有害添加物を含む
- ・環境ホルモン ・海鳥の4割に蓄積 ・世界中が動き出している。

[わたし達ができること]

- ・プラスチック製品削減
- ・マイバッグ持参
- ・自然素材使用
- ・紙容器にも使用されている

詳細は[マイクロプラ]検索

- ・講演後、回収作業実施
- ・この時期の回収作業はヨシが枯れ、ゴミなどが良く見えるから効率的。



栗岡講師も参加して、
総勢25名で挑戦!
短時間でトラック一杯。



3月9日(土)開催

●参加方法:下記へ電話予約
メールにて申し込みください
●当日参加費:無料
●参加費:ゴミ回収が出来る服装
長靴、ゴミ手袋、タオル、水筒など
●湖畔のアスファルトゴミを回収
ゴミが溜まっている場所まで移動
します
※歩行禁止

●申込期限 平成31年3月7日(木)まで
●参加人数 (20名程度)
※当日参加人数は変動
●集合場所 アイリスブリッジ

●時間:10:00~12:00

●主催:北潟湖自然再生協議会

湖畔の清掃は、周辺地区、北潟小学校児童、カヌー協会など様々な団体が継続して取り組んでいる。